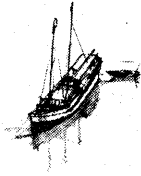


母親との対話

—ことばの教室—

相談記録より



清 原 敏

母親との対話

その1 A子・三歳十一カ月・脳性まひ

A子、母親の手をはなれて、声をあげて笑いながらへやにかけこんでくる。早速遊具に興味を示し遊び始める。右足を軽くひきずってはいるが、表情も豊かで歩行もしっかりしている。

(1)×月×日

◆ A子ちゃんは、ずい分活発ですね。この間、お電話で伺った状態よりずっと元気なのでびっくりしましたよ。

M そうですか。この子は仮死状態でうまれましたね。脳性まひと診断されてから私はきょうまで、ずっと心配のし通しなんです。将来のことが不安になって、何度も自殺を考えました。

◆ そんな弱気では、A子ちゃんがかわいそうですよ。おかあさんが元気を出してくださいね。脳性まひといっても、もっともつと重い方がたくさんいます。A子ちゃんは普通のお子さんとはほとんど同じように何でもできるでしょう。

M 本当ですか。今までそんなふうに考えたことは一度もありませんでした。どこにも相談するところがないので、あれやこれや気にするだけで……。それで、幼稚園に行く年齢にな

って困っているんですけど、この子がいいるところがないんです。近くに施設に行っている人がいるので、そこに聞いてみたら、今は満員なのでもう少し待つようにいわれました。施設というのは、どういうところですか。

M 重症の心身障害児の保育園なんです。

◆ A子ちゃんの入園のことで、普通の幼稚園や保育園に相談してみましたか。

M いいえ。そういうことは考えてもみませんでした。足がわるいし、ことばが出ないので無理だと思いこんでいましたから……。

◆ 普通の幼稚園にはいるには、A子ちゃんは、ころびやすいことや、医療の問題などで大勢の子どもたちの中では、目かどどかないということとわられることがあるとは思いますが、相談に行かれるとよいと思います。医療の問題は主治医とよくご相談をなさることが大事ですね。おかあさんは少し、A子ちゃんの足のことや、ことばのことを重く考えすぎていらっしやるようですがいかがですか。

M そういわれればそうかもしれませんね。

◆ A子ちゃんは、階段ののぼりおりもできるし、歩き方もしっかりしているでしょ。

M ええ、このごろは、私の手をはらってどんどん先にのぼろうとするんです……。たしかに私の方が考えすぎるころがあります。

脳性まひの子どもの教育に専念されているS先生にA子を紹介してみただき、子どもの育て方についての注意や今後のことについて指導していただいた。

普通の幼稚園や保育園にA子の入園を相談してみたが、どこからも人手不足や園児数が多いという理由でことわられた。

(2)×月×日

M 先生、この前は大分気持が楽になったんですけど、しばらくたつとまた、いつものように心配ばかりしているんです。

◆ お家ではA子ちゃんとどういふふうに通じていらっしやいますか。

M せまい部屋なので、遊ぶといつてもたいしたことはできませんから、A子と二人でテレビを見たり、おもちゃで遊んだりするくらいです。

◆ A子ちゃんはテレビがすきですか。

M ええ、子どもの番組は一緒に声を出したり、音楽も好きで

リズムにあわせてからだをよく動かしています。

◆ 公園に遊びにいらっしやいますか。

M いいえ、ほとんど外には出ないのです。

◆ 公園やお宅の近くで、他の子どもたちと遊ぶようなことはありませんか。

M ええ、この子は他の子よりも知恵もおくれているし、からだけが大きくても、他のお子さんについていけないのではないかということが、すぐ心配になっちゃって……。それで家の外には出なくなっています。

◆ 他のお子さんたちと比較をしたり、A子ちゃんができないことを要求したりなどはしないことですね。おへやの中だけでなく戸外に出て、自由に遊ばせてあげるとよいと思います。他の子どもたちのいるところで遊んでいるうちに、お友だちもできてくるでしょう。今のA子ちゃんにとっては、そういうことがとても大切だと思いますよ。

M そうでしょうか。知恵もおくれている他の子どもとは違って、とんちんかんなことをするように思えますが……。

◆ A子ちゃんの遊び方を見てそれほど知恵がおくれているとは思えませんし、ことばだって、A子ちゃんがお友だちや人とのまじわりを体験していくことで、どんどん増えてく

るでしょう。

M どうもお話をきいているうちに、私もA子のことを頭からだめだと思いこんでいたところがあるような気がしてきました。子どものためにいろいろやってみることにします。

このあと、母親から施設の保育園があいたのはいった方がいか、どうか迷っているという問い合わせがきた。どこにもはいれず、おかあさんと二人きりの状態よりは、そこへ行った方がいいだろうというS先生のご意見もあって、A子は入園した。

(3)×月×日

A子を伴ない、母親が明るい表情でやってきた。

M 先生、施設の保育園に入れてよかったと思います。はじめの二日間は、わあわあ泣いて私にくっついてはなれなかったのですが、三日目からひとり歩いてカバンも自分でしょって通っています。今までは、外へ出ると、ぐずって歩かず、抱いてもらったりすることが多かったんですけど、保育園がたのしくてたのしくて今度は家へ帰るのがいやだといって園で遊んでいるんですよ。

◆ それはよかったですね。そんなによるこんで……。おかあさんもいくらか安心なさいましたか。

M はい。とても気が楽になって、私もうれしくなりました。

ことばも、この前こちらに伺った時は、三〇ぐらいの単語をやっと話していたのですが、園にはいつてから急にことばが増えてきて、注意してきいてみたら八〇ぐらいの単語をしゃべるようになりました。

◆ すばらしいですね。A子ちゃんの生活がどんどん広がってきて、もっともつと伸びてくるでしょう。

M 先生にいわれてから、公園などにもなるべく出るようになっていきます。A子も同じぐらいの年齢の子どものそばへ行きたがるんですね。他のお子さんのように、話はできませんが、お互いに何かわかるような顔をして遊んでいるのでびっくりしました。ああ、友だちが欲しいのかと思いました。私はそういう姿を見ると、いけないことですが、うまくしゃべれないA子が、不憫になってしまって、やっぱり連れてこなければよかったかな、なんてつい思っちゃうんです。

◆ おかあさんが、A子ちゃんをかわいそうだとか、他の子どもと比べて恥ずかしいなどと思っていらいちゃったたら、正しい発達はできないと思いますよ。A子ちゃんはこれから伸び

ていくんだからと希望をもってA子ちゃんの生活を、たのしくしてあげてことを考えてください。

M よくわかったつもりでも、つい不憫になったり、自分のその時の気持でいらいらして怒ったりしてしまっているが、これからは、もっとゆったりした気持でA子と遊んでやろうと思えます。

この相談のあと、何度も母子で訪ねてくれたが、A子の成長ぶりは目をみはるほどで、ことも大分出てきたし、運動も歩行も、ますますしっかりしてきた。ちょうどA子のいる保育園に出かける機会があったので、見学させてもらったが、A子は普通の幼稚園にはいった方が、もっと伸びるのではないかという感じをもった。

A子の家は、今度公団住宅に当選して、神奈川県に引越した方が、どこを尋ねても、A子がいれる幼稚園がない。

その2 B男・四歳七ヵ月

生後間もなくひきつけをおこして入院。検査などで入院が半年も延びた。相談所では、行動観察や反応の仕方などにより、聴力も正常らしい、知能は推定では大体I・Q、83ぐらいだろ

うという判定だった。「あっ、あ、あ」と声に出して自分の要求を伝えたり、最近では動作や手まねで言いたいことを表現するようになってきた。

B男が普通児のはいる保育園に通うようになったのは、六月からだったが、それからのB男は見違えるほど変わってきた。両親が働いているので、祖母とたった二人だけの生活から多勢

の元気な友だちの中へはいつていったからだ。B男はよくわからないけれど、友だちにくっついて、広いホールをぐるぐる駆けたり、いたずらしたり、泣かされたり、思いきり笑ったり、ことばは相変わらず出なかったが、B男のいおうと思うことは友だちも結構わかってくれる。しかしどうしてもわかってもらえない時もある。そんな時は、一生懸命からだで、説明したり、あきらめたりする。

こういう楽しい毎日が続いていたある日、B男がたなのものをとろうとして台の上ののったが、誤って頭を打ってしまった。青い顔をして泣き出したB男は早速救急車で病院に連れていかれ、検査のため入院。これは別に何でもないとしたことだった。二、三日してまた床ですべてころんだ。この時はたいしたことはなかったのだが、園側では、早急にB男を退園させるよう

両親に迫った。たしかに園の先生たちの心配はよくわかるが、母親としては入園以来のB男のめざましい成長ぶりを思うと、退園の宣告は大変なショックであり、園の先生から、B男に適している公立の施設の保育園に紹介するといわれ、不安は一そうつつた。園の先生と、母親は再三話しあったが、園側は、B男がこのまま在園してもよいという医師の診断がないかぎり、通園してもらってはこまるということになった。母親はB男をずっとみていた主治医や専門家の意見を聞いて歩き、最終的に、主治医より「今までは、医療が主だったが、B男のこれからはリハビリテーションが主で、医療が従になる。それでこういう子どもは、集団にいれなければ伸びないと思う。他の子どもよりは、手はかかるかもしれない。園の受け入れ側の態勢だから、医者としてお願いするしかない……」といわれた。

この主治医の証明で、B男は再び園に通えるようになり喜びいさんで毎日通園している。

最近B男は、いろいろな音を出すような遊びをするようになり、これがたいへん母親のはげみにもなっている。

その3 C男・五歳四ヵ月

M きょうこちらに伺いましたのは、実はC男の幼稚園の先生

から「C男の発音がおかしいので、専門家にみてもらうように」と注意を受けたからなんですけど……。

○小学校の難聴教室で聴力検査を受けましたが、正常と
のことでこちらへ伺うよう紹介されました。

◆ 発音がおかしいというのは、具体的にどういことですか。
M はい。私はそれほど気にしておりませんし、放っておけば
なおると思っていたのですが、先生から注意されてから気を
つけて聞いてみますと、サ行がタ行になることもあるよう
です。

◆ 特にことばについて、お気づきの点がありますか。

M 別にありませんが、私たち両親が鹿児島出身なので、家庭
では鹿児島べんをつかっております。なにしろ鹿児島のこと
ばは、東京の人が聞けば外国語のように感じられるでしょう
から、そんなことも影響したのではないかと思います。

それからこの子は主人の勤めの関係で生まれたのは名古屋
で、三歳で大阪に移り幼稚園に一年間通ったのですが、関西
べんを自由につかっておりました。それで五歳になってから
東京に参りました。まだ東京に馴れていないこともあるので
しょうね。

そんなわけで、幼稚園の先生が、毎日十分ぐらいつつC男

をのこしてことばの指導をしてくださっているのですが、この
ごろ少しもりはじめたような感じなんです。

C男と、絵カード、録音ごっこなどで遊びながら観察をした結
果、異常というほどの程度ではなかったので、母親に安心するよ
うに話し、母親が幼稚園の先生ともっとよく話しあうように伝え
て帰した。その結果幼稚園でも、ことばの指導を中止され、連絡
では、C男も現在では、東京のことばを自由にあやつって元気よ
く遊んでいるということである。